資料３－１

京都市における将来の都市構造の考え方と駅周辺における都市機能の集積を検討する際の手順の整理

都市計画に対する基本的な考え方

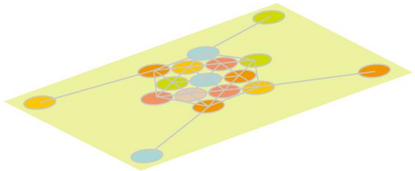
京都市都市計画マスタープラン
（平成２４年２月策定）

京都市の現状と動向から導き出された課題

- 人口動向
- 持続可能な都市の動向
- ものづくり都市の魅力向上
- 国際文化観光都市の魅力向上

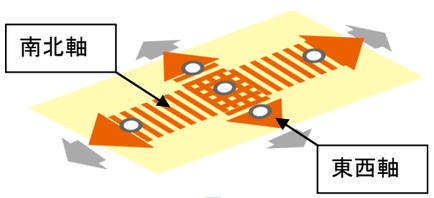
京都市における将来の都市構造
～エコ・コンパクトな都市構造～

これまでの保全・再生・創造の土地利用を基本としながら，交通拠点の周辺に都市機能を集積させるとともに，地域コミュニティを基本とした生活圏の維持・構築を図ることで，それぞれの地域が公共交通等によりネットワークされた，暮らしやすく，地球環境への負荷が少ないエコ・コンパクトな都市構造を目指す。



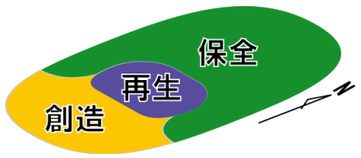
相互につながる個性的な地域の形成
○個性的な地域の形成
○地域をつなぐネットワークの強化

＋



都市活力の向上と低炭素社会を実現する都市構造の形成
○交通拠点を中心とした都市拠点の強化
○地下鉄をはじめとする鉄道やバス等の公共交通をはじめとした都市軸の活用

＋



京都市の特性を踏まえた土地利用の展開
○保全・再生・創造の土地利用
○山間部から市街地内部にかけての段階的な空間形成

駅周辺にふさわしい都市機能の集積を検討する際の手順（案）

第１回検討委員会

【手順１】駅周辺の地区を都市機能ごとに分類する。（市内全駅：１３０駅）
これまでに引き継がれた地域ごとの特性や今後の土地利用の方向性を踏まえ，駅周辺（駅から５００ｍの範囲内）を，以下の都市機能ごとに分類する。

商業・業務系（広域）の地区 都心部や京都駅周辺など，都市に活力とにぎわいを生み出す地区	**住居系の地区** 居住機能が中心となっている地区
商業（地域）系の地区 地域の核となる地区や，今後地域の核となることができるポテンシャルを持つ地区	**観光・文化・交流系の地区** 観光・文化・交流機能といった京都の魅力を高める地区
産業・業務系の地区 らくなん進都など，本市のものづくり拠点となる地区	**学術系（大学・研究機能等）の地区** 学術研究機能を高めるための拠点となる地区

次回以降の検討委員会

【手順２】拠点性の高い地区の抽出

都市計画マスタープランに掲げる戦略的な視点を踏まえ，都市機能の集積を促進する拠点となる駅を抽出する。

【手順３】都市計画として対応することにより，効果が見込まれる地区の絞り込み

上記の検討を踏まえながら，都市計画として対応することにより，効果が見込まれると考えられる駅を絞り込む。

京都市都市計画マスタープランにおける戦略的な視点

戦略的な視点

既存ストックの活用
・既存都市インフラや既存建築物などの更なる有効活用
・低未利用地（駐車場等）の有効活用　　など

京都の特性の継承と創造
・歴史・文化資源，魅力，個性等の継承と創造
・大学のまち京都の維持
・町並みや地域コミュニティの維持・継承
・既存の産業流出防止や新たな企業の立地促進

戦略的な視点

メリハリのある土地利用
・都市計画による産業・商業・業務機能等の立地誘導
・都心部における都市活力の向上を目的とした，にぎわい機能の充実
・保全・再生・創造を基本とした土地利用

人が主役の歩くまちの推進
・公共交通を最大限に活用した土地利用の誘導
・駅周辺での暮らしやすい生活圏の形成
・公共交通の利便性向上

「駅周辺にふさわしい都市機能の集積のあり方」の取りまとめ

都市計画の見直し

※平成２６年度から，京都市において実施